



# 広報 しばた



## 幸せがながーく続く年になりますように

お正月に食べるお餅には、一年の健康や幸せを願う意味があると  
いいです。今年はコロナ禍が収束し、お餅のように、幸せな日々が  
いつまでも伸びていくことを願いたいと思います。

【12月11日(土) 縄文の幸】

# 2022年 新年のごあいさつ

アフターコロナの時代における  
未来都市の実現に向けて、果敢にチャレンジ



柴田町長 滝口 茂

新年あけましておめでとうございます。年末には新型コロナウイルスの感染者も少なくなり、大分落ち着きを取り戻したように思えます。このままコロナ禍が収束に向かってくれればとの思いを強くしているとこゝろです。

今回、初めてのコロナ禍の中で、これまでとは異なった日常生活を経験することになりました。感染防止の観点から、人と人との接触をなるべく避けるために、外出や旅行などの自粛が要請され、買い物や飲食などは、通信販売やデリバリーで行うことが増えました。その結果、商店街での消費は大幅に落ち込み、また、海外からの観光客が途絶えたことで、これまでインバウンドで潤っていた地方経済は、大きな打撃を受けることになりました。感染者が少なくなった今でも、地方の経済は低迷したままとなっております。

一方で、コロナ禍という未曾有の事態に直面し、これまでの意識や考え方、また生活様式や行動パターンの変化を余儀なくされた反面、地方においては、厳しい局面にさらされながらも、明るい兆しも見え始めています。

コロナ禍を契機に、デジタル化が急激に進んだことで、都市と地方の情報格差が解消され、地方にサテライトオフィスを構える企業も多くなっています。またテレワークや、リモートでの会議が普及し、場所や時間にとらわれない働き方ができるようなったことで、自然豊かな地方で暮らしながら、子育てをするという若いファミリー層も増えていきます。

アフターコロナの時代を迎えるにあたり、世の中や地方がどのように変わっていくのか、期待と不安が入り混じっているところです。そうした中、未来の姿を

見据えて国際的な動きと なっているのが「SDGs」<sup>エスディージーズ</sup>です。「誰一人として取り残さない」ことを基本理念に2030年までに17の目標を達成し、持続可能な世界を実現しようとする試みです。

また我が国においても、このSDGsを視野に入れながら、目指すべき新しい社会として「ソサエティ5.0」を提唱しています。誰もが快適で活力に満ちた、質の高い生活を送ることができる、人間中心の社会の実現を目指そうとするものです。

柴田町におきましても、こうした未来社会の姿を念頭に置きながら、まずは私たちの身の回りで起きている地球温暖化の問題や、加速する少子高齢化や仙台都市圏への人口の集中、老朽化する社会インフラなどの社会問題や地域の課題に一つずつ対応しながら、地方創生を目指してまいります。

デジタル化の進展でますます便利になり、インターネットで世界中の人と情報がつながるアフターコロナの時代においてモデルとなる未来都市は、自然豊かでゆったりとした時間が流れる地方にこそあると思っています。

柴田町が目指すべき未来都市の実現に向けた取り組みとしては、1つには「歩いて暮らせるコンパクトなまちをつくること」です。2つには「まちづくりの推進エンジンに欠かせない資金を稼ぐ力をつけること」です。3つには「まちづくりを担う人材の確保や担い手の育成を図ること」です。4つには「行政のデジタル化や公民連携によるまちづくりを実践すること」です。このように、まち、仕事、人、プラス自治体と、4つの局面からアプローチをしてまいります。

①歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり

現在、柴田町にふさわしいコンパクトなまちの姿を描くべく、都市計画マスタープランと立地適正化計画を策定中です。この中に、槻木駅エリア、船岡駅エリア、船迫エリアに、新たな市街地の形成を目指す東船岡駅エリアを加え、この4つのエリアと農村部をシームレスに結ぶ、コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造を盛り込みたいと考えています。そうした都市構造を基盤に、四季折々に自然の彩りが心地よい、歩いて楽しいガーデンシティの構築を目指してまいります。

常設ポンプの増設を行ってきました。今年新たに、松ヶ越地区からの避難道路整備に向けた取り組み、古河水門付近堤防への排水施設の新設などを行います。国においては、阿武隈川における下名生地区の堤防拡幅の完成や、前田排水樋管の改築、県では、西船迫沢砂防堰堤事業を予定しています。

しかし、最近の短期間で記録的な大雨が降る気象状況の下では、河川や砂防の施設整備だけで水害を防ぐことには限界があることが指摘されています。やはり、「いざ」という時には、自分の命は自分で守り、行政はそれを全力で支援するといった「水防災意識社会」の構築に力を入れていく必要があります。ハザードマップの活用や、マイタイムラインの作成を通じて、住民の防災減災意識の向上を図ってまいります。また、交通事故や犯罪を未然に防止するために、通学路における危険箇所の解消、防犯灯の増設やLED化を進めてまいります。次に取り組むのが快適な生活環境の整備です。まずは老朽化した道路や橋などの維持管理を徹底するとともに、今年、町道槻木145号線における狭あい道路への取り組みや、さくら歩道橋の大規模改修を行います。



園の再整備計画を策定してまいります。

また、高齢者の利用が比較的多い地域福祉センターや、生涯学習センターをさらに快適に利用していただくために、現在の洋式トイレを、洗浄機付きトイレへ計画的に切り替えてまいります。

こうした安全で快適な都市を舞台に、多くの住民が生き生きと元気にまちづくりに参加し、活動していくことで、まちに活気が生まれてきます。

人生100年時代の到来を迎えて、一人一人が心身ともに健康で、自分らしく社会の中で活躍できるようにするために、地域医療体制の充実や地域包括ケアシステムの深化、フレイル対策などを通して、安心ネットの充実に向けてまいります。

新型コロナワクチン接種につきましては、昨年11月末に2回目の接種を完了し

ており、接種率は87.5%でした。3回目の接種については、2回目接種を終えた8カ月を過ぎた方から、2月より順次開始してまいります。

## ②「花のまち柴田」のブランド化による稼ぐ力の確保

今後、柴田町が未来都市の実現に向かって、持続的な歩みが続けていくためには、政策の裏付けとなる財源が必要となります。しかし、歳入において、柴田町が制限なく使えるお金、いわゆる自主財源は、歳入全体の47.5%しかありません。一方、歳入においては第1位民生費、第2位総務費、第3位教育費となっており、また予算の93.5%の配分先が決まっている経常経費となっています。このように、町の判断で自由に使える財源が乏しいため、住民の皆さんからの多様な要望や提案に、すぐに応え

られなくなっているのが柴田町の財政の現状なのです。そこで、住民の皆さんの

行政のニーズにすぐに応えるためにも税収以外に財源を確保する投資戦略が必要となるわけです。これまで船岡城址公園を起点に、「花のまち柴田」をテーマに観光戦略やプロモーション活動を展開してきました。

そうした観光戦略が功を奏し、令和3年11月末現在のふるさと納税の寄附額が前年度の同時期と比較し、1.2倍の約11億円となっています。令和2年度で集まった約17億円の寄附金の半分を活用し、学校の校舎、体育館、武道館などの整備を始め、トイレの洋式化や水害対策などを行ったところ です。

コロナ禍の影響で観光トレンドは、近場で観光スポットを巡るマイクロツーリズムへと移っています。まさにこの流れは、日帰り客をターゲットにした「花

のまち柴田」の観光戦略と軌を一にするものであります。

今後、四季折々に歩いて楽しいウォーカブルな歩行空間の整備や、東京圏はもとより大阪圏まで広げたプロモーション活動、2市9町と民間が連携した「みやぎ蔵王ハーモニー花回廊」を、国の庭園間交流連携促進計画認定に向けたチャレンジなど、「花のまち柴田」のブランド化を通じて、全国に柴田町の魅力を発信し、ふるさと納税に結び付けることで、自ら稼ぐ力を養ってまいります。

## ③まちづくりを担う人材の確保と担い手の育成

地方が抱える最大の課題である人口減少問題を克服するためには、まちづくりを担う人材の確保と担い手の育成を図る政策に全力を挙げなければなりません。まず、町外から人を

呼び込むためには、移住・定住対策や、関係人口の増加を図ることが重要で、その決め手となるのが、魅力的な働き場所が確保されていることや、教育や子育て、さらに情報環境の整備が進んでいることです。

まずは、東京都にあるふるさと回帰支援センターにおいて、きめ細かに柴田町の魅力や支援施策について情報を発信してまいります。また、地域おこし協力隊員の増員や、企業人材派遣制度の活用、移住体験ツアーなどを行い、関係人口の拡大に努めてまいります。

特に、若いファミリー層の移住・定住を促すため、太陽の村に大型の遊具やドッグランの整備を検討し、子育てがしやすい環境を整えてまいります。さらに、将来のまちづくりを担う子どもたちの教育環境の充実を図るため、引き続き快適な学校環境づくりに努めながら、一方で子どもたちか

ら要望があった、学校遊具やテニス用オムニコートを整備し、子どもたちの期待に応えてまいります。

また、学校教育のデジタル化に向け、自宅からでも授業に参加できる、リモート授業や教材のデジタル化などを行い、GIGAスクール構想の実現を目指してまいります。

#### ④行政のデジタル化と 公民連携・広域連携

地域社会や経済社会の変化によって、次々に起こる地域課題の解決に取り組むば取り組むほど、行政の業務量は増えるばかりです。

一方で、近年公務員への働き手が不足し、マンパワーの低下が懸念されています。今後10年先を見据えた中で、町政を持続的に運営していくためには、行政のデジタル化による業務の効率化や公民連携、さらに、これまで以上に、職員のスキ

ルアップを図っていかねばなりません。行政のデジタル化の一步として、1月からマイナンバーカードを使った各種証明書のコンビニ交付を開始しました。また、住民サービスの向上を図るため、「ご遺族手続き案内窓口」を町民環境課に設置してまいります。

公民連携の先駆け的事業として、現在PPP手法による総合体育館建設を進めています。1月には優先交渉権者が決まりますので、子どもからお年寄りまで使い勝手が良く、「いざ」という時には、安全で快適な避難所となる総合体育館の建設に取り組んでまいります。

また、柴田町で初めての認可地縁団体となった第10行政区の皆さんが自ら建設に取り組んだ集会所が、3月末に完成します。ここを拠点に、10区の自治活動がさらに活発化することを期待しています。

職員のスキルアップにつ

いては、常に現場に出掛け、住民の声を聞き、地域課題の解決に向けて、政策立案ができる職員を育ててまいります。

最後に、現在進めている役場庁舎や保健センターの改修工事は、3月末までに終了します。見違えるようにきれいで明るくなった庁舎で、職員と共に心機一転、アフターコロナの時代における柴田町の未来都市の実現に向けて、果敢にチャレンジしてまいります。

私自身、柴田町を発展させていく上でも、これまでの行政経験を下に、仙南地域全体を視野に入れ、ロールに考えながらも、グローバルに行動し、「シテイマナージャー」として仙南地域を牽引するリーダーシップを発揮してまいります。

白石川千桜公園



# を迎えて

## に10人の皆さんから きました。

私が協会員になったのは、妻の影響によるものでした。子育てボランティアを楽しそうにしている妻の姿を見たり、話を聞いたりしているうちに、私も活動してみたいと思うようになりました。

最初は活動への不安もありましたが、こどもセンターの皆さんからアドバイスをいただきながら、今は安心して活動することができています。

昨年はまだまだ照れがあって、子どもたちとも控えめにしか関わることができなかったので、今年はその殻を破りたいと思っています。そして、たくさんの親子にファミリー・サポート・センターを利用していただきたいと思っています。



むらかみ ひさし  
**村上 久さん**  
ファミリー・サポート・センター協会員  
(船岡地区 71歳)

仙台の蕎麦教室で蕎麦打ちを学び、蕎麦打ち体験会の開催や蕎麦祭りへの参加など、そば活6年目を迎えます。

地元で「蕎麦で人に喜びを与えたい」と考え、将来は蕎麦を通じて人と人がつながり、一人暮らしの高齢者や生活困窮世帯の子どもの支援などができるコミュニティカフェを起業するのが夢です。

昨年は、しばたの未来棟で行われた起業塾に参加し、「思いたそうそばの町しばた」をテーマに、初めて蕎麦カフェにチャレンジしました。今年は、定期的にチャレンジショップを開催し、フォロワーを増やしていけるように精進していきたいと思っています。



かも ゆうこ  
**加茂 由子さん**  
(槻木地区 55歳)

昨年は、町内の遺跡の発掘調査などで驚くような発見がいろいろありました。これから、この発見をどのように解釈するかという作業をしていきます。解釈によっては、柴田町の歴史が書き換えられる可能性もあります。

今年も、発掘調査は続き、また多くの発見があると思います。その調査の成果を、いろいろな形で町民の皆さんにお伝えしていきたいと思っています。

特に、学校での地域学習のお手伝いに力を入れて、発見のワクワク感を小中学生の皆さんに伝えていきたいです。



ごとう あきのぶ  
**後藤 彰信さん**  
柴田町文化財保護委員  
(槻木地区 65歳)

私は、昨年1年間、部活動を本気で取り組んできました。ワープロ部に所属し、個人で全国大会に出場することができました。また3年生が引退した後の初めての県大会では、団体が準優勝、個人で優勝することができて本当に嬉しかったです。高校生活の中で、とても良い経験することができました。

3年生になる私たちにとって、今年最後の大会となります。「全国大会に団体が出場する」という目標に向かって、大会の日まで努力を積み重ねていき、目標を達成したいです。



なかき みゆ  
**中木 心結さん**  
大河原商業高校2年  
(上名生地区 16歳)

昨年、二人目の子どもが生まれて、妻の育児の負担を少しでも減らせるようにと思い10月から育児休暇を取得しました。正直、育児休暇を申し出ることによって不安がありましたが、上司や職場の方がとても理解してくれて、話して良かったと思っています。

毎日、子どもたちと一緒にいると、日々成長を感じることが出来ます。一方で、子育ては同じことの繰り返しで、妻の苦労を理解することもできました。

3月には職場に復帰しますが、育児休暇を取得したことでより子どもたちと過ごす時間の大切さを実感したので、仕事をしながらも子どもとの時間を作っていききたいと思います。



くさか ともひろ  
**日下 智博さん**  
(若葉町地区 30歳)

# 2022年

## 新たな1年の始まり 抱負を語っていただく



こまつ さな  
**小松 沙菜さん**  
仙台大学3年  
(船岡地区 21歳)

私は、大学2年生の時にクリケットという競技を始めました。今では、世界で戦うことを目標にチームメイトと日々切磋琢磨しています。新型コロナウイルスの影響で思うようにいかないこともありました。その分当たり前でできることのありがたさを感じることができました。これからも、支えてくれている全ての人、練習ができる環境に感謝しながら高みを目指して努力し続けたいです。

また、今年は4年生になり大学最後の年となるので、勉強も部活動もより一層気を引き締め、1日1日を大切にしながら悔いの残らない大学生活にしていきたいと思っています。



ひきち けんいち  
**曳地 健一さん**  
(四日市場地区 38歳)

父の後を継ぎ農業を始めて12年、昨年から四日市場沖第2生産組合の組合長をしています。この地区でも、営農者の高齢化や新規の就農者がいないなど、担い手不足が問題で、地区の農業を守っていけるのか不安を感じることもあります。

私自身、農業に興味を持つきっかけは、小さい頃に田んぼや畑での遊びからでした。地区の子ども会では、子どもたちに種まきや収穫を体験してもらうという活動を行っています。来年は子どもたちが農業に触れる機会を多くつくることで楽しさを伝え、農業を志す子が一人でも増えてくれるように「未来への種まき」ができればと思います。



ふじわら ももな  
**藤原 桃奈さん**  
船迫中学校2年  
(西船迫地区 14歳)

中学校生活も半分が過ぎました。昨年は、生徒会副会長として、先輩方に導かれながら迫中を盛り上げられるように考え、実践してきました。私が1年間、副会長をやり通すことができたのは、いつも引っ張ってくださった先輩方のおかげです。

11月からは生徒会長を務めています。今は、学校をより良くしていきたいという思いと、自分が引っ張っていかねばならないことへの不安で一杯です。しかし、生徒会長として目の前のことに一つ一つ全力で取り組み、皆を引っ張っていくことが、先輩方への恩返しになると考え頑張っていきます。今年は挑戦の年。日々、精進していきたいです。



ひらしま みよ  
**平島 美代さん**  
里山ハイキング案内人  
(西船迫地区 63歳)

昨年、里山ハイキング案内人の友人から誘われ、ちょうど仕事を退職したこともあり、案内人の研修を受けて活動に参加するようになりました。元々、里山ハイキングが大好きで、数多く歩いてきましたが、初めて参加者ではなく案内人として活動してみると、季節によって様子が変わるコースの知識など、まだまだ勉強しなければならないことが多くあると感じました。

今年はベテラン案内人の皆さんをお手本に、山の知識を深めながら、何か1つでも参加された方の記憶に残る案内や説明ができればと思っています。



さんべ とうま  
**三瓶 斗真さん**  
船岡小学校6年  
(船岡地区 12歳)

「好きを見つけて得意を伸ばす」これが、僕の今年の抱負です。

6年生になって、僕は歴史が好きになりました。もっと知りたいと思って本を読んで勉強しているうちに、歴史や社会がとても得意になりました。好きなことを深めていくと、自分自身が成長できることに気がきました。

4月からは中学校生活が始まります。勉強や部活など、新しい生活には心配なこともあります。この抱負を胸に、いろいろなことに挑戦して「好き」を見つけ、たくさん勉強してもっと成長していきたいです。



## Shibata Fantasy Illumination2021

日 12月3日(金)~30日(木)

所 船岡城址公園・JR船岡駅前

希望の光を灯して

# 柴田町 冬のイルミネーション







# メタセコイアの奇跡! 光り輝け槻木駅 2021

日 12月4日(土)~1月9日(日)

所 JR槻木駅前



# まちかど NEWS



田園や五間堀など約8.3キロのコースを歩きました。

## 地域の魅力を発見あぶQウォーク

12月5日(日)、阿武隈急行の沿線を歩く「あぶQウォーク」が2年ぶりに開催されました。

参加者はJR槻木駅をスタートし、四日市場、上川名、富沢の名所を巡り、休憩所では地域の方からのおもてなしを受けるなど、自然や人とのふれあいを感じながら歩いていました。

高野和子さん(白石市)は、「槻木の魅力を知ることができました。地域を見直す良いきっかけになっていると感じました」と話してくれました。



チェックポイントでは、沿線市町の特産品が当たる抽選会も行われました。

## 手作りチャリティー市

NEWS

11月23日(火・祝)、まちづくり推進センター(ゆる・ぷら)で、第6回手作りチャリティー市が開催されました。このチャリティー市は、個性豊かな作品を製作する団体が、活動を知ってもらうとともに、売り上げの一部を寄付することを目的としています。友人と訪れたという三浦さんは、「可愛いバッグや小物を買って楽しかったです。私も小物作りが好きなので、買ったものを参考に何か作ってみようと思います」と話してくれました。



アクセサリーやバッグなどの手作りの作品が並びました。

広 告

広 告

## 町 特産の雨乞の柚子販売会

11月28日(日)、柴田町観光物産交流館さくらの里で、しばた雨乞の柚子販売会が行われました。

販売会では、生柚子のほか柚子胡椒やスイートトビネガーなどの、雨乞の柚子を使った加工品が販売されました。

さくらの里を訪れた際に、販売会を見つけ立ち寄ったという佐藤さん(大河原町)は、「生の柚子を買ってみました。この柚子を使って、シロップ漬けを作ってみようと思います」と話してくれました。



今年の柚子は豊作でとても出来が良いそうです。

## 柴田町ジュニアリーダーの活動が表彰されました

12月4日(土)、柴田町ジュニアリーダーサークル「かぐや姫」が、公益社団法人全国子ども会連合会より表彰されました。

この表彰は、全国の子ども会活動を行っている団体の中で、10年以上に渡り継続的かつ、顕著な活動を行ってきた団体に贈られるものです。

かぐや姫会長の小野寺彩加さんは、「自主企画などを通じて、積極的に地域に貢献していきたいです」と今後の活動について話しました。



「かぐや姫」では18人の中高生が活躍しています。

## シクラメン展示即売会

12月4日(土)、5日(日)、柴田町観光物産交流館さくらの里で、シクラメン展示即売会が行われました。

町内の花き生産者が育てたシクラメンは、花色や花弁の種類が豊富で、好みのシクラメンを求めて多くの方が訪れていました。

町外から訪れた方は、「冬の間、長く花を楽しむことができるシクラメンが好きで買いに来ました。来年の冬も花を咲かせられるように、上手に育てたいと思います」と話してくれました。



寒さに強く冬の鉢花の代表として人気のシクラメン。

広 告

広 告

みんなで協力して大きな魚を作った劇「スイミー」。(船岡保育所)



## ドキドキわくわくの発表会

11月26日(金)から30日(火)にかけて、町内の各保育所で発表会が行われました。

可愛い衣装を身にまとった子どもたちは、集まった保護者の前で、日ごろから練習を重ねてきた劇や歌を元気いっぱい披露していました。

榎木保育所の齋藤所長は、「子どもたちは成長するにつれできることが増えて、それをお父さんお母さんに見てもらいたいと、一生懸命練習してきました」と話していました。



劇「三匹の子ぶた」では歌とダンスを踊りました。(西船迫保育所)



楽器の演奏と歌を披露しました。(榎木保育所)

## しばた歴史探訪

### 第14回 久須志神社

久須志とは薬師を訓読みしたもので、元々この神社は江戸時代中期の1736年に、榎木の宿場の人々によって建てられた薬師如来を祀る薬師堂でした。このお堂は江戸時代、榎木白幡の八幡神社の別当寺(神社を管理するお寺)である白幡寺というお寺が管理していました。江戸時代には、神仏習合といって、日本の神々は仏様が形を変えて現れたものだと、神と仏は一つのものとする考え方が当たり前だったからです。

しかし、明治維新後、新政府は天皇を中心とする新しい国の形から、神社とお寺ははっきりと分けなければならぬと考え、神仏分離令という法令を出します。これにより白幡寺は廃寺とされ、薬師堂は久須志神社に形を変えて存続することになったのです。今でも榎木の人人々は、親しみを込めて「おやぐっさん」と呼んでいます。

日照りの年には、この薬師如来に雨乞いをすると願いが叶ったことから、「濡れ薬師」とも呼ばれました。また、桐の木を薄く輪切りにし、真ん中にひもを通したものを年の数だけ奉納すると、耳が聞こえるようになるという信仰もあります。旧暦の4月8日が大祭で、町内を山車が巡り「榎木遣り」がうたわれました。

最近では、第16行政区の有志が榎木神楽保存会を結成し、大祭で奉納された神楽を継承する努力を重ねています。また、地域活性化につなげようと境内で朝市も行われています。

園しばたの郷土館 Tel 55-0707



【お詫びと訂正】しばた歴史探訪第13回(広報しばた11月号掲載)のタイトルに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。【誤】富沢摩崖仏群 【正】富沢磨崖仏群

広 告

広 告



## 健康情報クリップ

なるほど!

みんなの健康ライフ シリーズ86

### 第86回のテーマは、 「生活習慣を改善して高血圧予防」です。

高血圧の基準は、ご家庭で測定した場合、収縮期血圧が135mmHg以上、拡張期血圧が85mmHg以上とされています。高血圧は自覚症状を感じにくく、放っておくと脳卒中や心臓病、腎臓病などの重大な病気を引き起こします。高血圧の予防・改善には、食事や運動などの生活習慣を見直すことが大切です。

#### 生活習慣改善のポイント

##### ○減塩を心がける

高血圧最大の原因と言われているのが、塩分の取り過ぎです。成人1日当たりの塩分（食塩）摂取量は男性7.5g未満、女性6.5g未満が目標とされています。汁物は具たくさんにして汁の量を減らしたり、めん類の汁はできるだけ残しましょう。

塩分を排出する働きのあるカリウムが多く含まれる野菜、海藻、きのこ類、果物を積極的に取りましょう。  
※果物には糖分が含まれているため、食べ過ぎには注意が必要です。

##### ○定期的にからだを動かす

運動は血圧を下げる効果があります。汗ばむ程度の有酸素運動（ウォーキング・サイクリング・水泳など）を、1日30分を目安に、週3～4日の頻度で行うと効果的です。無理せず体と相談しながら継続して行うことが大切です。  
※高血圧の治療中の方は、医師と相談してください。

##### ○適度な休養・睡眠をとる

心身のストレスも高血圧の要因になります。しっかりと睡眠をとり、疲れを残さないようにしましょう。また、自分なりにリラックスできる時間をつくりましょう。



##### ○禁煙を行う

たばこに含まれるニコチンには血管収縮作用があり、血圧を上昇させます。高血圧と喫煙が合わさると、動脈硬化や心筋梗塞などのリスクを高める要因になります。禁煙外来などを利用し、積極的に禁煙にチャレンジしましょう。

#### 栄養士からのアドバイス

醤油や味噌、漬物、干物など、日本食には塩分が多く使われているため、ついつい塩分を取り過ぎてしまいます。かつおぶしや昆布でだしを効かせたり、香味野菜、香辛料や酸味を上手く活用すると、薄味でも物足りなく感じません。また、調味料に頼らなくてもおいしい旬の食材を取り入れるなど、塩分を取り過ぎないようにしましょう。

図健康推進課 TEL55-2160

4 質の高い教育を  
みんなに



## 私たちとSDGs 連載④

問まちづくり政策課 TEL54-2111

### ゴール 4. 質の高い教育をみんなに

世界には、紛争や貧困、社会的格差などが理由で学校に通えない子どもが約1億2千万人います。教育が受けられないと、安定した収入を得られず、貧しさから抜け出すこともできません。この課題に対して私たちは、世界で起きている教育の問題を正しく認識することが重要であり、課題解決の第一歩となります。

「質の高い教育」を提供するため、町では、小中学生に一人一台パソコンを配付し、授業にICT（情報通信技術）を活用するなど、誰もが場所を選ばず教育を受けられる環境づくりに取り組んでいます。



こうほう 文芸

短歌

朝ぼらけ鶴の舞橋霽の中  
欄干の灯り螢火の如  
今秋は未だ鶴の影も無く  
餌生る木木に残る実鮮やか  
これまでの幸せ背負い友は逝き  
残されし夫さびしきいかに  
振り向けば喜怒哀楽の五十年  
いつもの家族いつもの時間  
白鳥が今年も来たね阿武隈川  
群れて飛んでく蔵王連峰

船岡 可沼 妙子  
船岡 伊藤タイ子  
西船迫 下浦 智子  
槻木 白石 光子  
槻木 平間 三郎

すみっこに入り込んだ猫ども  
引つ張るよりも待つと出てくる  
目にとまる根の公式ひとつ飛び  
ニキビ早弁女子高文化祭  
ポチ袋孫の笑顔と交換し  
今年の願いも「平穩無事」と  
寂聴さんこの世にいない寂しさよ  
勇氣ある言葉天より再び  
夜来雨もすっかり上がり  
キラキラサロンの紅葉列り  
行く先々で笑顔はじける

西船迫 安ヶ平良三  
四日市場 鳥井崎  
本船迫 森田 眞六  
船岡 沢田 順子  
船岡 大庭 とみ

川柳

初日の出有難く拝し八十路生き  
秋空に子供の挨拶さわやかに  
コロナ禍で疎遠の友へ年賀状  
ガラス越し売ってる猫と比較する  
朝早く昇る朝日に手を合わせ  
監督と選手の絆で日本一

槻木 加藤 節子  
槻木 永井 貞子  
北船岡 日下 功  
西船迫 安ヶ平良三  
船岡 阿部美代子  
西船迫 後藤 文子

ややこしやモミジ景色に雪が舞う  
障子張るたるみは風の影とせむ  
師走なか五大陸駆ける新コロナ  
老いたネコ主といっしょに牛乳飲む

四日市場 鳥井崎  
槻木 加藤 マサ  
槻木 村上 紫寿  
船岡 小林 夢子

俳句

朝明けの空に残れり十五の月  
ど忘れをこたつに戻り思い出し  
西部屋の微光集めて冬籠  
宵闇の天に輝く月明かり  
元日の空へ突きだす拳かな  
寒明けや机のひかり拭く朝  
雨粒の磨きあげたる竜の玉  
七草にコロナ退散囃しけり

船岡 可沼 妙子  
西船迫 佐藤 厚子  
西船迫 飛鳥  
槻木 平間 三郎  
石母田星人  
鎌形 清司  
齋藤 善則  
鈴木 三山

女学生の坂道ダツシユ冬木の芽  
風は未だかたし若菜を摘むあした  
白亜紀を琥珀の中に下萌ゆる  
下萌や青空かける夢を追ふ  
冬障子笑顔はじける祝い膳  
夕餉まつ二匹寄り添い炬燵猫  
温かき人たちと集うこたつかな

鈴木 清子  
鈴木 幸子  
峠 三枝子  
吉田 啓子  
船岡 安藤 節子  
西船迫 安ヶ平奈津枝  
船岡 沢田 順子

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで1月14日(金)までご応募ください。 圃 まちづくり政策課 TEL54-2111

広 告

広 告



## 我が校の ICT 教育

これからの社会では、情報が今まで以上にあらゆる分野で活用されていくことは間違いありません。本校では、情報社会を生きる生徒たちが、情報をひとつのツールとして活用できるように、さまざまな活動で積極的にパソコンや電子黒板を使用しています。

### 1 教科指導などでの活用

各教室、武道場、体育館など、校舎内どこにいてもパソコンや電子黒板がインターネットにつながる環境が整備されています。その中で、生徒の学びを支える使い方を工夫し、活用しています。その活用例を紹介します。

- ・授業で使う資料を、生徒のパソコンや電子黒板で共有する。
- ・体育の授業で、生徒が自分のパソコンで画像や動画を撮影して動きを確認する。
- ・音楽の授業で、専用アプリを使用して作曲する。

これら以外にも調べ学習や、まとめ学習など、幅広く活用しています。



電子黒板に一人一人の意見を表示しています。

### 2 学校行事でのリモートの活用

新型コロナウイルス感染症の影響で、全校生徒が集まるのが難しい場合でもオンラインを活用し、生徒が各教室にいる状態で学校行事を実施することができました。

これまで、対面式や中総体選手激励会、生徒総会などを工夫しながらリモートで実施しました。特に臨時休業となった2学期の始業式は、リモートで自宅と学校をつなぎ、学年ごとに行うことができました。また、文化祭では、直接参観できない保護者のためにライブ配信を行いました。

関係者全員が集合できることが理想ですが、それができない状況のときにリモートで学校行事を実施できたことはありがたいことでした。



集会をリモートで行っています。

学校教育においてICTの活用は効果的であると考えています。今後も積極的に取り入れ、生徒の学びを充実させていきます。

〔槻木中学校長 川田 尚〕



柴田町  
Shibata Town

## 柴田町 LINE 公式アカウント

イベントや防災・防犯情報など、生活に役立つ情報をお届けします。

二次元コードを読み取り、友だち追加してください。

問まちづくり政策課 Tel.54-2111



# 広 告

## お庭の素晴らしさを 皆さんに伝えていきたい

株式会社 柴田造園

大坂 悠矢さん (24歳・写真右)  
渡邊 柊哉さん (19歳・写真左)



今回は、公園の樹木管理や個人宅の庭木の剪定から、日本庭園の造園までを手掛ける(株)柴田造園の大坂悠矢さんと渡邊柊哉さんを紹介します。

上川名地区にある柴田造園は、県内の若い造園職人が技術の習得のために研修に訪れるなど、高い造園技術を誇っています。入社1年目の大坂さんと渡邊さんは、公園や個人宅の庭木の剪定や伐採、草刈りなどの仕事をこなしながら、日々庭造りの技術習得に奮闘しています。

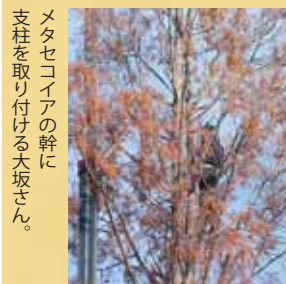
仕事の面白さについて何うと大坂さんは、「同じ植物でも日当たりや土壌などによって伸び方が全く違うのを見ていて面白いですよ。その状態を見極めながら形を整えていくのが、難しい所であり面白い所でもあります」と話します。また渡邊さんも、「剪定ひとつにしても、ただ切るだけではなく、その樹木が将来どのように伸びていくのかを見据えながら鋏を入れていくところに面白さを感じています」と話してくれました。

今後の目標について何うと大坂さんは、「自分が手掛けたお庭で、お客さまに喜んでもらえる事がなにより嬉しいので、そのためにも早く一人で現場を任せても

らえるようになりたいです」と話し、また渡邊さんは、「造園技能士1級の取得と、数年後には技能五輪へ出場したいと思っています。夢は自分の会社を持ち、若い人に造園の良さを伝えていくことですね」と話してくれました。

渡邊さんが出場を目指す技能五輪は若い職人がその技術を競う大会で、大坂さんは過去に出場した経験を持ち、「同年代の出場者からいい刺激を受け、そこで造園の面白さを知ることでもできました」と振り返っていました。

また、毎年柴田造園では槻木地区の住民の方や企業が協力して開催している「メタセコイアの奇跡」において、イルミネーションを支える支柱を木に取り付けています。今年は大坂さんがその作業を行ったそうで、地域に貢献できる仕事に携わることができた喜びを、肌で感じたそうです。槻木駅を訪れた際には、若い職人が手掛けた仕事をご覧になってみてください。



メタセコイアの幹に支柱を取り付ける大坂さん。



庭木の枝に鋏を入れる渡邊さん。



株式会社柴田造園  
柴田町大字上川名字館山90  
TEL 56-1093

日本庭園の造園や、公園の樹木管理、庭木の剪定などを手掛ける。  
従業員4人

人口と世帯数  
(令和3年12月1日現在)



37,361人  
(前月比20人減)



18,637人  
(前月比12人減)



18,724人  
(前月比8人減)



16,137世帯  
(前月比5世帯増)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。